

「かつしか郷土かるた」の制作状況について

1 制作の趣旨

葛飾区教育振興ビジョン（第2次）と葛飾区生涯学習振興ビジョンに基づき、ふるさと葛飾への理解を深め、郷土愛を醸成するために、「かつしか郷土かるた」を制作し、その普及と活用に取り組む。

「かつしか郷土かるた」制作委員会を設置し、かつしか区民大学の区民運営委員会が企画した郷土かるたを学ぶ講座の受講者や児童・生徒との協働により制作する。

2 これまでの経緯

(1) 読み札の公募

平成23年4月に、「かつしか郷土かるた」の読み札を公募するとともに、5月には、区内4か所で、「かつしか郷土かるた」の読み札をつくるためのワークショップを開催した。

応募数：2,028枚、応募札数：5,124首

応募学校数：小学校 39校 中学校 10校

ワークショップ参加者数：子ども 34人 保護者 18人

ワークショップ読み札数：255首

◆応募総数 5,379首

(2) 読み札の決定

葛飾区立小学校教育研究会や葛飾区郷土と天文の博物館と連携しながら、公募で集まった読み札の言葉を整理し、関係者や関係団体等と調整のうえ、読み札を決定するとともに、解説文を作成した。

(3) 絵札（原画）の作成

決定した読み札に合わせ、切り絵作家辰己雅章氏に絵札（原画）の作成を依頼した。

3 今後の予定

平成24年3月に完成予定。完成後、区内の全小学校・中学校に配布し、特に小学校3年生の全児童に配布する。また、区政情報コーナーや郷土と天文の博物館で一般区民等に500円で販売する。

「かつしか郷土かるた」読み札と解説文案

資料

あ	荒川は 人がつった 放水路	荒川は東京を洪水から守るために掘られた放水路。工事は1911年から1930年にかけて行われた。工事を指揮したのはパナマ運河工事に日本人としてただ一人参加し、世界最先端の土木技術を身に付けた青山士である。
い	いくつもの 川が流れる 水のまち	葛飾区には江戸川、大場川、中川、新中川、綾瀬川、荒川が流れ、千葉県、埼玉県、足立区、墨田区と接している。荒川と新中川は、放水路である。
う	うたわれた 古代かつしか 万葉集	日本最古の歌集、万葉集の「東歌」には「かつしか」を詠んだ歌がある。この「かつしか」は、東京の旧南葛飾郡（葛西）、千葉県東葛飾、埼玉県北葛飾にわたる広い地域で、葛飾区はこの中から生まれた。
え	笑顔生む おもちゃ育てた セルロイド	葛飾はセルロイド工業発祥の地。昭和初期よりセルロイド人形を大ヒットさせたが、セルロイド人形が自然発火をしたために、次第にプラスチック製品に変わっていった。全盛時には、国内生産額の9割を占めた。
お	鬼塚は 歴史つたえる 玉手箱	地元では鬼塚と呼ばれている。中世に造られ、近世に造り直されている。鬼塚の周りの鬼塚遺跡からは、古墳・奈良・平安時代の資料が出土、発見された。
か	金町に くらしささえる 浄水場	1929(昭和4)年開設の東京都の浄水場。23区と多摩地区の一部に飲み水を供給、人々の生命と暮らしを支えている。江戸川の水をオゾン処理した「東京水」は浄水場水ブランド化のモデル。とんがり帽子の取水塔も人気である。
き	季節ごと 食卓いろどる 元気野菜	水と土に恵まれた葛飾では、旬の野菜が豊富に収穫される。江戸時代には「小松菜」、明治になって「金町小かぶ」「新宿ねぎ」などの新鮮な野菜が東京の町に運ばれた。現在は「とれたてイキイキ葛飾元気野菜」ブランドで、食卓に届けられている。
く	区歌うたう 光りと希望 力あり	葛飾区歌は音頭、紋章とともに公募され、1951(昭和26)年3月に制定された。歌詞には、江戸川、水、緑の大地、遠くに見える富士山などの自然や、区民みんなで住みよい街、明るい街にしようという決意が歌われている。
け	懸命に 車夫がおっぺす 人車鉄道	1899(明治32)～1913(大正2)年まで、帝釈天にお参りする人を運ぶために、金町・柴又間を人が押して走っていた。京成電車が走ることになり廃止された。現在の金町・柴又間の線路が直線なのは、人車鉄道の名残である。
こ	古代では 立石様が 道しるべ	立石様と呼ばれ立石の地名の起りとなった石。この石は、古墳時代後期に、古墳を造る目的で房総(今の千葉県)から運ばれてきたと考えられる。その後この石を古代東海道(奈良の都と地方を連絡する道)の道標にしたと考えられる。

さ	参道の にぎわい楽し 帝釈天	1629(寛永6)年造営の寺。境内の「御神水」と建物の彫刻が有名。川魚料理、草団子、せんべいなどの店が軒を連ねる参道は、特に縁日「庚申」の日には参詣者・観光客で賑わい、外国人も多い。映画「男はつらいよ」の舞台としても有名である。
し	しばられて 願いかなえる 地藏尊	名奉行大岡越前の話で有名になったしばられ地藏は、南蔵院の境内に安置されている。地藏様を荒縄で縛って願をかけ、叶ったら縄を解く。顔が見えないほど縄で巻かれ、ご利益のある地藏様として親しまれている。
す	水郷の 景観残す 水元公園	東京23区内最大の都立自然公園。昔の川のあとで小合溜・釣仙郷とよばれている。オニバス、花しょうぶ、かわせみ、オオタカなどが生息。水質改善の努力もされている。災害時の救援・復旧の拠点としても整備されている。
せ	せんべいの 手焼きの姿 あちこちに	葛飾区の名物の一つ。葛飾区が江戸時代から稲作地帯だった為に、米を使った団子や煎餅が作られた。煎餅工場では、米を蒸して搗いて、干し、焼いて塩や醤油で味つけし販売している。また、店内で手焼きをして売っている店もある。
そ	箏曲を 江戸で流行らせ 山田検校	山田検校は江戸時代に活躍した箏曲山田流の創始者。幼少の時失明したが、箏の道を極め、盲人の最高官位である検校を与えられた。山田流箏曲は雅な品とともに、艶やかで派手さもあって、江戸の人々の人気を得た。
た	鷹狩に 將軍通った 小菅御殿	江戸時代半ば、八代将軍徳川吉宗の時に鷹狩りの際の休憩所として、小菅御殿が設けられた。九代家重が多く利用した。現在東京拘置所のあるところが、旧小菅御殿。石灯籠が当時の面影を残している。
ち	中世の 遺跡が語る 葛西城	発掘調査で見つかった戦国時代の城跡。下総と武蔵の国境に位置する重要な拠点で、諸勢力の攻防の場となった。江戸時代には、徳川将軍の鷹狩りの休憩所として、青戸御殿が構えられた。
つ	綱で曳き 旅人いきかう 曳舟川	曳舟川は、江戸時代のはじめ飲料水のための上水としてひかれ、農業に用いられた。その後、客人を乗せて船頭が土手から綱で舟を曳いたため「曳き舟」という。初代歌川広重の浮世絵「名所江戸百景」に描かれている。
て	てんすけてん 葛西ばやしは 江戸囃子	葛西神社が発祥の地である「葛西囃子」は、葛西地方に古くから伝わる祭囃子。江戸の町から関東周辺にまで広まり、東北地方や東海地方の囃子の元となった。
と	寅さんが 駅で故郷 ふりかえる	背広を引っ掛けた「フーテンの寅」像は、柴又駅から旅立つ寅次郎が、生まれ育った町と妹さくらを振り返る姿。柴又駅は「関東の駅百選」の一つである。観光客が様々なポーズで寅さんと写真を撮っている。
な	中川は 右に左に 七曲	中川は埼玉県内を流れ、葛飾区北西部から中央を流れて、高砂橋下流から蛇行し、上平井橋下流で綾瀬川に合流する。上平井水門は、水害を防ぐ為に造られた。新中川も洪水被害を防ぐため昭和38年に造られた。
に	日常の 生活描く 綴り方	1937(昭和12)年、本田小学校の担任大木顕一郎によって豊田正子の作文が『綴り方教室』として出版された。昭和初期の四つ木に住むブリキ職人一家の生活をありのままに描いてベストセラーとなり、演劇や映画にもなった。

ぬ	ぬくもりと 笑顔あふれる 商店街	駅のまわりや駅に向かう道に商店街があり、日常の生活に必要な品物を扱っている。商店街では、アーケードを造ったり、歩行者天国にしたり、特売日を設けたりお客さんが買い物をしやすい工夫をしている。
ね	年貢米 たくわえ備え 郷倉で	郷倉は、江戸時代に各村の年貢米を一時保管するために建てられた倉庫。江戸後期の建造と推定されている。建造当時の様式をよく残して保存されており、都内にただ一つの貴重な文化財である。
の	農村と 江戸を結んだ 葛西舟	江戸の町々で汲み取られた糞尿は、舟や馬車に積まれて運ばれ、近郊の農村で肥料として活用された。この下肥運搬船は、葛西舟と俗称された。復元船が郷土と天文の博物館に展示されている。
は	ハーブ橋 ほんとになるかな ポロロンと	首都高中央環状線の四つ木出入口と平井大橋出入口の間にあり、綾瀬川を渡る橋。S字型曲線と橋を吊る48本のワイヤーが描く美しい姿が、ハーブのように見え、首都高、初の愛称公募によりこの名がついた。
ひ	非核都市 平和を祈る 千羽鶴	葛飾区は1983(昭和58)年に「非核平和都市宣言」を行い、区民の平和への願いをこめた非核平和祈念塔を青戸平和公園に建てた。非核平和祈念のつどいでは、区内の小中学生や一般の人から千羽鶴が供えられている。
ふ	故郷と 宇宙をつなぐ 博物館	葛飾区郷土と天文の博物館は、葛飾の歴史をたどる郷土博物館と、星の世界をさぐる天文博物館が一つになった博物館。宇宙の彼方まで自由に旅することができる日本初の機能「デジタルユニバース」を搭載している。
へ	へえ ほんと 金魚の形 葛飾区	葛飾区は東京都の東に位置し、形は尾ひれをひらひらさせた金魚に似ている。尾ひれの辺りに以前、金魚の研究をしていた東京都水産試験場があった。目の赤い「エドアカネ」はここで作られた金魚である。
ほ	堀切の 菖蒲を描く 江戸百景	堀切菖蒲園は観光花菖蒲発祥の地としてにぎわい、第二次世界大戦までは多くの園があった。今は残った堀切園に数多くの品種が植えられている。初代歌川広重の浮世絵「名所江戸百景」にも描かれている。
ま	町工場 技とパワーが あふれてる	葛飾区の工場の数は都内第3位で、いろいろな業種があり「すごい」技術を持っている。世界で認められた製品もある。優れた技術により造られた製品・部品・技術などを葛飾ブランド「葛飾町工場(まちこうば)物語」として認定している。
み	水戸街道 人馬にぎわう 新宿のまち	江戸時代の新宿は宿場で、水戸と佐倉の両街道の分岐点。「枡形」の道の両側に中川屋、藤や、亀屋などの旅籠や茶店が立ち並んでいた。甲州街道の「内藤新宿」より古い宿場町である。
む	虫の声 秋草そよぐ 野草園	鎌倉野草園は鎌倉公園内にあり、クロマツ・ケヤキなどの樹木やオミナエシ・フジバカマなどの野草、約150種類が植えられた庭園。四季折々の風情を楽しめる。
め	明治の美 レンガを積んだ 閘門橋	1890(明治23)年に完成した閘門橋は、「古利根川」と大場川の流れを調整して、洪水を防ぐための最先端の水門。東京に現存する唯一のレンガ造りのアーチ橋で、区指定文化財。レンガは金町で作られたものを使っている。

も	餅つきの うさぎと眺める スカイツリー	葛飾のいろいろな所からスカイツリーを見ることができる。中でも高砂橋から眺めるスカイツリーは、中川とその上に架かる緩やかなアーチ型の青砥橋の彼方に見え、葛飾らしい水辺の景観になっている。夜は、街路灯が水面を彩って幻想的である。
や	弥惣兵衛 よびよせつくる 小合溜	1729(享保14)年に農業用水のために、八代将軍吉宗が紀州から井沢弥惣兵衛を呼んで造らせた貯水施設溜井。上流の松伏領から水を引き入れた。葛西領50余りの町村の田畑を潤す灌漑用水(上下之割用水)の水源地であった。
ゆ	友好を ウィーンと育む モーツァルト	葛飾区は、オーストリア共和国ウィーン市フロリズドルフ区と友好都市提携を結んでいる。かつしかシンフォニーヒルズのモーツァルト像は、永遠の友好のシンボルとして贈られ、日本に1つだけのものである。
よ	吉宗の 病 治した お花さん	八代将軍徳川吉宗が鷹狩の際に腰を痛めた。今のお花茶屋駅辺りにあった茶店で休み、その店の娘、お花の心のこもった手当てを受けて漸く治すことが出来た。それから店の名を「お花茶屋」といわれるようになった。
ら	ランナーが 今日も行きかう 河川敷	江戸川を始めとする土手や河川敷は区民の運動の場として使われてきた。河川敷では野球・サッカー・ラグビーなどの球技が行われ、土手では、人々が歩き、走り、自転車を楽しんでおり、区民の健康づくりに貢献している。
り	両さんを 探しに亀有 出かけよう	1976年、区内在住の漫画家秋本治により、まんが本『こちら亀有公園前派出所』が生まれ、その後テレビ、映画と人気になった。亀有の町に両さん像と「こち亀」の仲間達があちらこちらに設置されている。
る	累代の 技術が染める 江戸小紋	細かい着物の模様である小紋を、小宮康助(人間国宝)が近代に伝え普及させた。3代にわたって伝統技術を継承している。その他にも区内には沢山の伝統工芸品があり、染色工業も代表的な産業であった。
れ	歴史から 治水を学ぶ 桜土手	今は「水元さくら堤」と呼ばれ、堤防道路となっているが、かつて東京低地に流れていた古利根川の堤防のなごり。1947(昭和22)年9月、カスリーン台風では昔の河筋が切れ、葛飾区・江戸川区を水没させ大きな被害を与えた。
ろ	櫓がきしむ 川面のどかな 矢切りの渡し	江戸時代に幕府が農産物の運搬のために設けた都内に現存する唯一の渡し舟。残したい「日本の音風景百選」の一つ。三遊亭円朝の落語、伊藤左千夫『野菊の墓』、細川たかし「矢切の渡し」など数々の作品に描かれ、碑がある。
わ	和と洋の 美が調和する 山本亭	関東大地震後の住宅。木造瓦葺2階建てで、長屋門を備えた伝統的書院造りと大理石のマントルピースやステンドグラスを備えた洋風建築が複合した建物。住宅と調和した和風庭園は、外国の庭園雑誌にも紹介されている。

※ 印刷の際には、漢字にルビをふります。

か



く



し



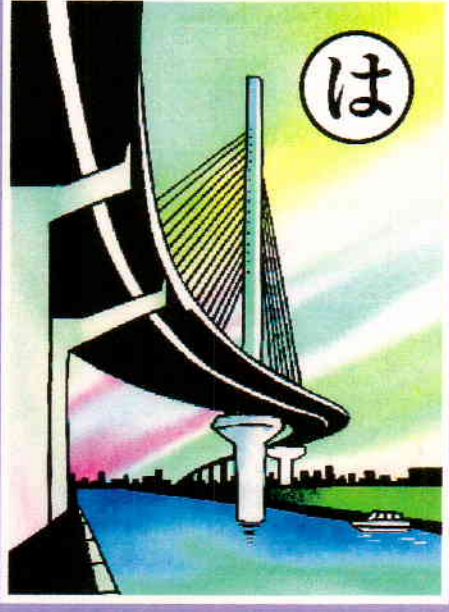
す



と



は



ほ



よ



り



